

平成25年4月1日(月曜日)



### ネパールの混乱打開のために

今回は、木村三浩さんとのネパール珍道中について紹介したい。

今年三月某日から、ネパールのカトマンズに木村さんと行つた。目的は壮大である。ネパールは二〇〇八年に王制が廢止されて以来、政治状況は混沌としている。現在の与党はネパール共産党毛沢東派(いわゆるマオイスト)で議会の全議席数六〇のうち二二〇議席を持つ。第二党が国民党議派と呼ばれる政党で一〇議席。第三党はネパール共産党マルクス・レーニン主義派で一〇議席を持つ。ネパールの政局間は意見の対立が激しく、合意がなかなか得られない。ネパールは現在、憲法もなく議会も開催されていない。木村さんは独自の人脈でマオイストとのルートがあり、私は共产党マルクス・レーニン主義派とルートがあつたので、二人で協力して橋渡しをすればネパールの政治が機能し始めるのではないかとう、ある意味、荒唐無稽な壮大な構想に基づいて訪問することになつた。木村さんも私も初めてのネパール訪問だ。

しかし、この訪問は始めから躊躇していた。私はマイページの無料航空券を使って香港まで行き、カトマンズで現地集合ということにしていた。私はマイページの無料航空券を使って香港まで行き、カトマンズで現地集合ということにしていた。私はマイページの無

いた。不景気で経費削減の折り、それぞれ安く行ける方法で行き、カトマンズで現地集合ということにしていた。私はマイページの無

う。世界チャンピオンにもなった人だ。なので、ネパールの若者の英雄だ。

### ネパールの選挙事情

翌朝、マルクス・レーニン主義派で元首相のマダブ・クマル・ネパールさんと会うことになつた。私は十年來の知り合いで、年に数回お目にかかる仲だ。木村さんも紹介すべく一緒に行くはずだったが、木村さんがカトマンズに着く飛行機はお昼頃だったのでも、やむなく一人でネパールさんの自宅を訪ねた。

宿泊先のシャングリラ・ホテル(あのシャングリラグループとは関係のない地元のホテル)に戻り、夕食を食べに行くことになつたが、スレンダーさんのお勧めはなんと北朝鮮料理だつた。ネパールは北朝鮮と国交があり大使館がカトマンズに存在する。その北朝鮮レストランに行つたときも大使館員もいた。入ると、もうそこはピョンヤンのレストランと変わらない。料理も十分においしかつた。

タイ航空の羽田からのバンコク便は深夜発なのだが、レコンキスタ三月号への執筆・編集作業に没頭するあまり乗り遅れたといふのだ。しかし、木村さんの段取りによろしく、私がドライバーグループが一日遅れになる。マオイストに

が一日遅れになる。マオイストにして、総選挙をすることになつては伝えてあるから、迎えは空港まで来るはずだから。ではカトマンズで」ということだつた。

政治状況について聞くと、「今、主要政党間で合意し、最高裁判所判事を選挙管理のための暫定首相にして、総選挙をすることになつてはいる。選挙は早ければ六月、遅いと十一月だ」という。よくよく話を聞くと、六月から十一月の間のどこかということではなく、六月か十一月で、七月から十月は天候不良のため選挙はできないといふ。雨が多い地域では道がぬかるんで選挙に行けない人がいたり、雪が多い地区では外に出られない状況になるおそれがあるそうだ。

戦況について聞いたところ、「前回の選挙は楽勝ムードだつた。しかし、油断しているうちに、マオイストにお金をばらまかれ負けた。珍道中は続く。まだ

# 石井至の世界放浪記

しまつた。今回は油断せずに最後まで選挙運動をしつかりとやりたい。マオイストは人気が低落しているから、今回は我々が勝利するだろう」と鼻息が荒かつた。

ネパールさん訪問後、カトマンズ空港まで木村さんのお出迎えに行つた。木村さんは元気そのもの。ただ、到着が一日遅れになつたため、首相を含むマオイスト幹部との各種面談の日程が仕切り直しになつたとスレンダーさんはぶつぶつ言つていた。